

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 5 年 5 月 18 日

千葉県知事

熊谷 俊人 殿

提出者 〒292-0835

住 所 千葉県木更津市築地7-1  
黒崎播磨(株)

氏 名 池部 哲則 工場長

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0438-37-0121

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	黒崎播磨（株）木更津不定形工場
事業場の所在地	千葉県木更津市築地 7-1
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

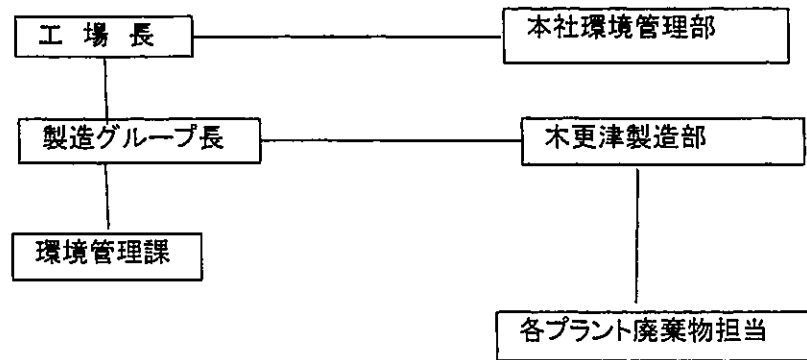
① 事業の種類	大分類 製造業 中分類 窯業・土石製品製造業
② 事業の規模	前年度製品出荷額 75億円
③ 従業員数	131名（正社員 113名 派遣社員 18名）
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<pre> graph LR     A[製造工程] --&gt; B[がれき類]     A --&gt; C[汚泥]     A --&gt; D[木屑]     A --&gt; E[その他]     B --&gt; B1[一部内製化使用]     B --&gt; B2[委託処理(中間処理)]     C --&gt; C1[委託処理(中間処理)]     D --&gt; D1[委託処理(中間処理)]     E --&gt; E1[委託処理(中間処理)]                     </pre>

（日本工業規格 A列4番）



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 4 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

(第 2 面)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項								
①現状	【前年度( R4 年度 )実績】(単位 : トン)							
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	木屑	管理型混合廃棄物	廃プラスチック(有価売却)	ガラス陶磁器屑	廃油
	排出量	1253.1	887.5	179.2	30.2	129.9	30.4	1.7
<p>(これまでに実施した取り組み)</p> <p>がれきは、不具合品の発生率が減って 昨年比 -50t、木屑は有価売却が増となり 昨年比 -20tとなった。                      一方で汚泥は、昨年とほぼ同じくらいの産廃量で製造時における漏れ、コボレ対策が停滞している状況にある。</p>								
②計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	木くず	管理型混合廃棄物	廃プラスチック(有価売却)	廃油	
	排出量	1000	800	120	30	120	2	
<p>(今後実施する予定の取り組み)</p> <p>がれきは、更に不具合品の発生が減ると見込まれ 約200tのマイナスで設定、汚泥も、製造時の漏れ、コボレ対策の促進によりマイナス90tで設定した。</p>								
産業廃棄物の分別に関する事項								
①現状	<p>(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木屑については、パレットの分別を進めて売却出来る物については、売却量を増やし産廃量を減らす取り組みを促進している。</li> </ul>							
②計画	<p>(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木屑については、パレットの分別を進めて売却出来る物については、売却量を増やし産廃量を減らす取り組みを促進している。</li> </ul>							

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	57.1 t	t
	(これまでに実施した取組) がれき類の選別、再生利用の促進に努めているが、品質面で問題が出ている為、停滞している状況。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	100 t	t
	(今後実施する予定の取組) 今後とも品質面での問題と向き合いながら再生利用の促進に努め産廃量の削減に取り組んでいく。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

(第 5 面)

目標 単位:t								
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	木屑	管理型混合廃棄物	廃プラスチック(有価売却)	廃油	
②計画	全処理委託量	1000	800	120	30	120	2	
	優良認定処理業者への 処理委託量							
	再生利用業者への 処理委託量	500t	30	120		120	2	
	認定熱回収業者への 処理委託量							
	認定熱回収業者への 熱回を行う業者への 処理委託量							
	(今後実施する予定の取り組み) がれき類について工場内の再生利用促進を展開中。木屑についてはパレット有価売却の取り組みの促進。廃プラスチック有価売却を継続中。(運賃との相殺で産廃処理としている)							
*事務処理欄								

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。